



喜びにあふれた

クリスマスチャン目ざして

基督兄弟団理事長・目黒教会牧師

工藤 公敏

阪神大地震の被災地を訪ねた。長田区の焼野原に立って、帽子を脱いで、神のあわれみを求めて祈った。

そして私は、一九五九年九月、伊勢湾台風の名古屋で遭い、翌年、すべてをささげて主に従い聖書学院に入学したことを思い浮かべた。

母は私の勤めていた新三菱重工の寮に電話を幾度しても通じないので死んでしまったと思ったとのことだ。母は私が牧師になることに反対であった。お前が結婚して、その子供を牧師にさせたら良いではないかとも言っていた。伊勢湾台風から二ヶ月後、母は病床洗礼を受けた。私は母に、私が死んだと思っただけであきらめてくれと頼んだ。

台風が去って数日後、会社の机の上に、一冊の少女向きの本が見舞いとしてのついていた。クリスチャン社

長が下さった「少女パレアナ」という本であった。両親を天に送り、おばさんの家に引き取られながら牧師の父から教えられた喜びの遊びを展開して行く少女パレアナの生き方に励まされた。

その頃、私は、パレアナのように喜びにあふれたクリスチャンになりたいと思った。

再臨の手紙といわれるテサロニケ第一の手紙五章十六節、十八節に、聖化の恵みにあずかったクリスチャン生活が記されている。「いつも喜び絶えず祈り、すべてのことについて感謝する」勝利の生活である。

私はこの聖句が大好きで、この聖句に照らしながら歩んでいる。

世界最大の希望の日、キリストとお目にかかる日を待ち続けながら聖き日々を送り、和解の福音、聖化の

福音、再臨の福音を伝えられることは、すばらしい恵みである。

聖化の不徹底なクリスチャンによって教会成長がまたげられる。ねたみ、高ぶり、怒り、さばきあうことが一人一人の心の中からのぞかれ、愛しい、赦しい、仕えあう教会となったら、どんなにすばらしいことだろう。

毎年秋に開催される聖化大会が待ち遠しい。主にある聖徒とお会いしお祈りの交わりができる楽しみがある。祈りの準備が重ねられる。

私の若い頃になかった神学校の交わり会がある。どこの地に派遣されたら。そこに教団教派を超えて交わり会がある。何と心強いことだろうか。協力しあって宣教が聖会も豊かに祝されるよう期待したい。

教 勢

集 会 名		集 会 人 数 (名)	
10月17日(月)	セミナー I	294	17日延べ 1,017
	教師交歓会	49	
	講 演	228	
	聖 会 I	446	17・18日延べ 2,693
女 性 大 会	530		
レセプション	55		
セミナー II	371		
神学生交歓会	199		
10月18日(火)	聖 会 II	521	18日延べ 1,676

財 勢

集 会 名	席上献金	予約献金	合 計
聖 会 I	356,125	1,274,300	1,630,425
聖 会 II	417,831	141,000	558,831
セミナーII	237,985	152,000	389,985
女性大会	491,715	721,500	1,153,215
そ の 他	US\$1851,753	27,582	29,335
合 計	1,445,409	2,316,382	3,761,791

聖会 I 『神のみこころ』

◆ R・リー博士

私は今晚「神のみこころ」についてお話をしたい。第一テサロニケに目を留めていただきたい。これはパウロが書いた最初のお手紙です。彼は生まれたばかりの教会にこの手紙を書きました。テサロニケに滞在したのはわずか三週間でありましたが、その間に数名の人々がイエス・キリストを受け入れて教会が設立されました。テサロニケの手紙はこのような新しいクリスチャンに対するものです。どうしたら信仰生活を送ることができるとか指示を与えたのです。奨励の手紙です。そしてその手紙の中に「神のみこころ」について書きました。

「神のみこころ」とは何でしょう。新しいクリスチャンたちは、何が神のみこころかを知りたいがっていました。神は明確な御方です。四章に目を留めていただきました。神のみこころは、あなたが聖くなることです。(3)パウロは教団、教派などなんの背景のない第一代のクリスチャンに向ってこのように明確に語ったのです。パウロがこの問題を扱う時にある問題を指示しました。神と共に歩んで聖くなるという事は性的な不潔から遠ざかることです。これがテサロニケの一代目のクリスチャンに対することばでしたが、その時代から少しも事態は変わっていません。未だにこの問題は現代の問題です。

五章を見ましょう。更にパウロはこの一代目のクリスチャンに対して、クリスチャンとしてどのようにふるまうべきかを語りました。二つの偉大なことばが記されています。一つは目を覚まさない(6)です。しかし、私は今晚もう少し進んで神のみこころについて考えて見たい。神のみこころはいろいろな意味を含んでいます。この所には神のみこころについて一番幸いな喜ぶべき事が書かれています。11節にはすばらしい奨励を見ます。互に励まし合い、互に徳を高めていくなさい。これは全生涯をかけての仕事です。喜ばしいお仕事です。どこからスタートするのでしようか。あなたの家庭から、あなたの生活の場所からです。更に16節には美しい方法で奨励がなされています。パウロが語っているのは歌を歌っているように感じられます。いつも喜んでいなさい。(16) 絶えず折りなさい。(17) すべての事について感謝しなさい。(18)

しかし突然衝撃的に、これは神のみこころであるとのことばが続きます。パウロは私たちのゴールは神を喜ばせる事だと言っています(IIコリ5・9)いつも折っていることばです。またどんな環境の下にあっても、感謝を献げることです。これは神の私たちに對するみこころだからです。問題は どうしたらそれを体験することができると言うことです。私は大きな三角形を書きました。一つの辺には、いつも喜んでいなさい。と、もう一つの辺には、絶えず折りなさい。と、底辺には、すべての事について感謝しなさい。と書きました。三角形の中には、これこそ神のみこころ」と書きました。それは私の意志を神のみこころの中に飛び込ませるといふ決断です。その秘訣はキリスト・イエスにあって(18)ということにあります。このことはイエス様から出ておりイエス様の考えですから、私も神のみこころに従って生きるのです。それからパウロは具体的な指示をしました。御霊の火を消すとはいいけません。(19) 神のおことばをないがしろにしてはいけません。(20) すべての事を聖書によって試されなければなりません。(21) あらゆる種類の悪を避けなければなりません。(22) こうして平和の神ご自身が私たちを全く聖めてくださるので、テサロニケに生まれた新しい教会に語られた事程、はつきりと神のみこころが示されている事はないでしょう。神様に私は私の意志の全部を働かせて、あなたのみこころに従います。と申し上げましょう。その時、主は私を徹底的に聖めてくださると約束してくださったのです。私はこのお方を信じます。しばしば頭を垂れて祈るの時を持ちましょう。(文責 西村内弘)

二
一博士御夫妻
はってない数
ます。

報新(東京)大会聖化回第9

昨年10月17日(月)～18日(火)、第9回聖化大会・東京大会が淀橋教会で開催されました。R.を主講師として、恵みあふれる集会となりました。特に聖会第2夜には521名という、字が示され、感謝でした。別表の通り教財勢を報告し、下記に聖会メッセージの要約を示

聖会II『主にあって喜ぶ』

◆R・リー博士

パウロは、活力あふれるピリピの教会にこの手紙を書き送りました。四章四節に「いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。」とあります。パウロは繰り返して、喜ぶようにと語りました。そして六節に「何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」という、はっきりとした命令をしるし、続いて七節に「そうすれば人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」とのすばらしい約束を述べています。

しかし、思い煩わないことは、現実に可能なのでしょうか。私たちが人間である限り不可能です。しかし、思い煩いはじめたときにいやしの道があります。私がインドで奉仕をしていたころ、ことを覚えるのにはたいそう苦労していた時期があります。そのときに与えられたのが詩篇三七篇のみことばでした。私の生涯はその時以来変わりました。パウロも主イエスも「思い煩うな。」と言われました。この詩篇では、ダビデが「腹を立てるな、心配するな。」と言っています。このことは信者と教会に対する神の語りかけです。思い煩いに対する解決の道をこの詩篇に見いだすことができます。

「主に信頼せよ」(三節)、
「主をおのれの喜びとせよ」(四節)、「あなたの道を主にゆだねよ」(五節)。主を中心に置くときにすべてが正しく動くのです。思い煩いに所を得させることなく、主イエスを文字どおり主としてお迎えすることが大切です。

インドのマラティ語で「ゆだねる」ということは、手を洗ってその手を下に向ける、という意味です。私たちの思い煩いや心配、また苛立ちをそのように扱わなければなりません。私たちが自分ではどうすることもできないことは、家庭のことも将来のことも、すべて主にゆだねればよいのです。

では、どのようにして主にゆだねていることがわかるでしょうか。それは主に信頼することです。全面的に主に寄りかかることです。もし私たちが何かを天の父の御手にお託ししたとするなら、天の父は、お託ししたものを、必ず最も良くしてくださるので、何の心配もすることなく、感謝することができるとです。

主に信頼していることは、主にあって喜ぶことによってもわかります。すべてがうまくいっているときだけでなく、苦難の中にあるときも、主にあって喜ぶことを学びはじめたいのです。主ご自身を喜ぶのです。

私たちが主にゆだね、主を信頼し、主を喜ぶようになると、私たちの人生は、新しい次元にはいるのです。これらすべての結果は「主の前に静まる」(七節)ことです。主イエスは「わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」と言われました。インドにいたとき、私は重要な会合を前にその重荷で押しつぶされそうになっていました。そのときに与えられたみことばである出エジプト記三三章一四節には「わたし自身がいつしよに行つて、あなたを休ませよう。」とあります。神の前に心を静めるとき、神のやすらぎを自分のものとすることが出来ます。神のやすらぎは思い煩いからの解放です。

今晚神様は、あなたのために安息を用意しておられます。人生の思い煩いに対する解答を持っておられます。神様はあなたに、ゆだねること、信頼することを学びはじめること、そして主にあって喜ぶことを教えたく願っておられ、そして主の安息を受け取るよう願っておられるのです。これこそがきよめられた生涯を歩む道です。

(文責 林 正弘)

地域だより

関東聖化交友会栃木ブロック

昨年十月三十日に開催された、栃木ブロック聖化大会のご報告をいたします。

栃木ブロックは満足してから足掛け六年目になります。大会は講師を招き例年二回、春季と秋季に開かれております。第八回大会は昨年十月三十日、宇都宮コンセンレを会場に持たれました。今回の講師はイムマヌエル綜合伝道団財務局長、高津教会牧師・藤本栄造師をお迎えしました。当会は通例、現地がニースをうかがいながらテーマを決め、講師には予めご了承を頂いて語っていただくことをしております。今回は「聖潔と祝福」でした。救霊のリバイバルは度々ホーリネス陣営から出ていたことですが、昨今、種々の耳目を奪う運動に、ともすると今迄何も無かったもののように雷同することなく主体性をもち、むしろ、我々が期待されなくてはならない筈であるべきこと、また、聖化は、当然のこととして教会の成長を約束された祝福でもあることを確認したかったのです。

説教は、ペテロ第一、一章十三〜二十一節「キリストの満ち溢れる祝福。来会者は百余名。本来のきよめが語られ、恵みに満ちて恵みの座には大半の方々が進み出しました。

昨年三月、これまで労をとられた前任者の山田彰先生に代わり未熟な報告者(イムマヌエル宇都宮教会)が皆様に推挙されて、責任の衝に当たらせていただきました。当ブロックのため、今後とも尊いご指導とお祈りをお願い申し上げます。(報告・山田 隆)

東海聖化交友会

新しい踏み出し

東海聖化交友会も、はや七年目となり、できるだけ、「多くの兄弟に恵みを」との願いから、従来(木)から、初めて二日間(土、日)の開催に、思い切って踏み出した。大きな祝福

「期待をはるかにこえた恵み(ある教職者の感想)を、いただくことができた感謝した。

リー博士の平易で、実際のメッセージは牧師・信徒双方に大きな祝福であった。

◎全体賛美、特別賛美も祝され、特に聖歌隊には約七十名が参加し、力強い響きだった。

◎土、日ということ、多くの方が集うことができた、第一日は約百名、第二日は二百名以上の来会者があった。インド聖化交友会の復活のためにもとの要請に応じ、献金は、二十八万円をこえ、人数、献金とも今までの最高の記録となった。ことに、東は浜松、西は松阪から礼拝後駆けつけられた方々もあり、大きな励みであった。

◎これからのこと
前回の拡大役員会は、この祝福が、当地のきよきへの渇きと、こうした集会の必要を示すものと信じ、新年度からもう一歩踏み込んで、年二回の開催を決定した。六月開催の(東海聖会)土、日曜日と秋に関東・関西と連動して行う(聖化大会)木曜である。比較的遠い地域の、志を同じくする方々の出席を願うことである。お祈りを乞いつつ。

(報告 会長 竿代 信和)

九州聖化交友会

九州聖化大会報告

「ウエスレーの第二の恩寵について学び、経験し、主の期待に添いたい」との願いを、九州聖化交友会の会長磯崎崎和先生が九州聖化大会直前に発行された九州聖化交友会の会報四号に記されました。その願いをこめて、第五回九州聖化大会を一九九四年十一月十六日と十七日の両日、ナザレン熊本教会において開催しました。講師には日本聖化交友会会長の木田弘慈師、日本ホーリネス教団八王子教会牧師の松木祐三師をお迎えしました。本田弘慈師は、十六日の聖会においてエペソ人への手紙五章二十二〜三十三節から、翌十七日午前の婦人大会ではヨハネ第一の手紙四章十〜十八節からお語りくださいました。

松木祐三師は、十七日午後のセミナーにおいてローマ人への手紙六章十一節を開き、「聖化の恵み」を用意されたプリントをもとに講演され、その夜の聖会においてはヨハネの福音書十七章十二〜十九節よりお語りくださいました。

十七日の昼食後、教役者懇談会を開き、今後の活動について意見を交換し、一九九五年度の講師にイムマヌエル船橋教会竿代忠一師、基督兄弟団名古屋教会毛戸健二師をお迎えすることを決めました。回を重ね、今回も九州各県から非常に多くの方々が出席されました。きよめをテーマにした集いとして着実に成長しつつある事実を受け、主の御名を崇めた次第です。(報告 國重 雅治)

総務リポート

▼第10回聖化大会(東京)の会場は、従来の淀橋教会が工事に入られまうので、事務局の方で探させて頂き、左記の場所が選ばれました。過日の役員会で承認されましたので、お知らせします。(編)

第10回聖化大会 会場決定!!

- ◆会場 社会文化会館 東京都千代田区永田町1-8-1
- ◆日時 '95年10月16日(月)~17日(火)

【交通】(最寄り駅)

- 地下鉄有楽町線 永田町下車 3分
- 地下鉄半蔵門線 永田町下車 4分
- 地下鉄丸の内線 国会議事堂前下車 6分
- 地下鉄千代田線 国会議事堂前下車 6分

